

消費動向調査

「(山形・秋田)県内家計の消費動向調査」(概要)

- 調査の目的** 山形・秋田の県民の暮らし向きについての現状と見通しを時系列的にとらえるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。
- 調査の方法** 専属モニターを対象とした郵送によるアンケート調査
- 調査の対象者** 山形・秋田の県内に在住するサラリーマン(勤労者)世帯(世帯人数2名以上)
- 調査期間** 平成25年9月1日(日)～19日(木)

山形/モニター世帯数: 500世帯
有効回答数: 482世帯(回答率: 96.4%)
秋田/モニター世帯数: 377世帯
有効回答数: 367世帯(回答率: 97.3%)

消費指数

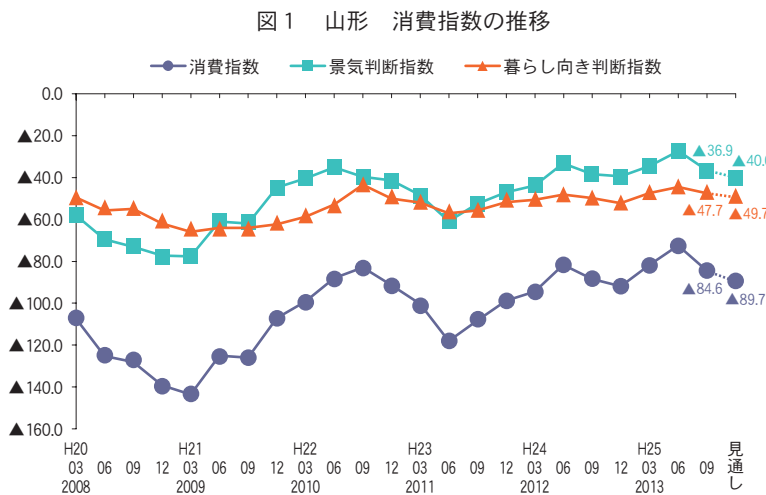
第29回 山形県内家計の消費動向調査

～消費マインド: 回復傾向から一転して低下へ～

消費指数は▲84.6(前期比12.0ポイント下落)となり、前期まで2期連続で回復していたが、今回調査で悪化となった。内訳は、景気判断指数が▲36.9(前期比9.1ポイント下落)、暮らし向き判断指数が▲47.7(前期比2.9ポイント下落)といずれも悪化した。

今後の見通しは、消費指数が▲89.7(今回調査比5.1ポイント下落)とさらに悪化の見込み。内訳は、景気判断指数が▲40.0、暮らし向き判断指数が▲49.7といずれも悪化の見通しとなっている。

以上総括すると、回復傾向にあった消費マインドが一転して低下に転じ、後述のとおり、物価上昇への警戒心が一層強まりつつあると言える。



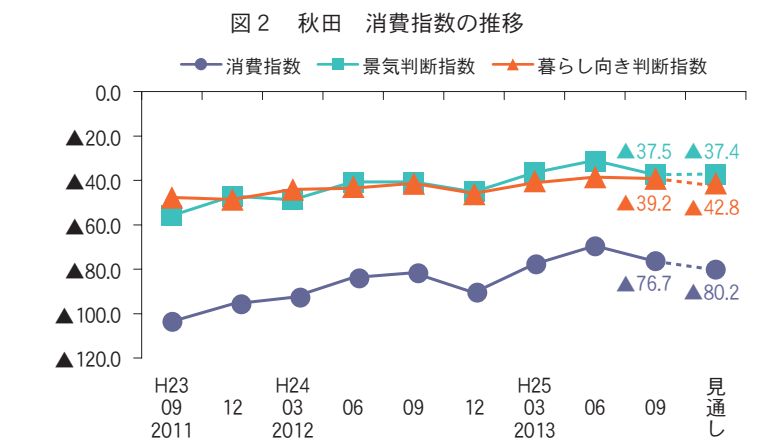
第9回 秋田県内家計の消費動向調査

～消費マインドの改善基調は一服～

消費指数は▲76.7(前期比7.2ポイント下落)と3期ぶりに悪化に転じた。内訳をみると、景気判断指数が▲37.5(前期比6.2ポイント下落)、暮らし向き判断指数が▲39.2(前期比1.0ポイント下落)と共に3期ぶりに悪化した。

今後の見通しは、消費指数が▲80.2(今回調査比3.5ポイント下落)と小幅ながら悪化の見込み。内訳は、景気判断指数が▲37.4とほぼ横ばいの一方で、暮らし向き判断指数が▲42.8とさらに悪化が見込まれている。

以上総括すると、後述のように物価上昇懸念の高まりなどを映じ、消費マインドの改善基調が一服しており、足元は悪化の動きを示している。



【指数の見方】

消費指数は景気判断指数(景気・雇用環境・物価の3項目で構成)と暮らし向き指数(世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとり)の4項目で構成)の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

景気と暮らし向き

景気判断

山形の指数は▲36.9(前期比9.1ポイント下落)となり、前期まで2期連続で回復していたが、今回調査で悪化した。景気判断指数を形成する3つの指数についてはすべての指数で悪化となり、「景気(県内)」が▲8.2(前期比2.8ポイント下落)、「雇用環境」が▲9.2(前期比1.9ポイント下落)、「物価(日用品)」が▲19.5(前期比4.4ポイント下落)で、特に「物価(日用品)」の悪化幅が大きく、県内の景気や雇用環境、物価上昇への警戒心が強まっている。

秋田の指数は▲37.5(前期比6.2ポイント下落)と3期ぶりに悪化に転じた。景気判断指数を形成する個別指数では、「景気(県内)」は▲8.1(前期比1.3ポイント下落)、「雇用環境」は▲10.8(前期比0.8ポイント下落)とともに小幅ながら悪化し、「物価(日用品)」は▲18.6(前期比4.1ポイント下落)と、平成23年9月の調査開始以来最低の数値となった。燃料代・電気料金の値上げに加え、来年4月の消費税増税を控え、物価上昇への警戒感が色濃く窺える。

暮らし向き判断

山形の指数は▲47.7(前期比2.9ポイント下落)となり、前期まで2期連続で回復していたが、今回調査で悪化となった。暮らし向き判断指数を形成する4つの指数については、「世帯収入」が▲12.3(前期比1.0ポイント下落)、「保有資産」が▲12.1(前期比0.7ポイント下落)、「お金の使い方」が▲8.9(前期比0.7ポイント下落)、「暮らしのゆとり」が▲14.4(前期比0.5ポイント下落)と、すべての指数で悪化した。

秋田の指数は▲39.2(前期比1.0ポイント下落)と3期ぶりに悪化に転じた。暮らし向き判断指数を形成する個別指数をみると、「お金の使い方」が▲5.0(前期比0.5ポイント上昇)と小幅ながら2期連続で回復した一方で、「世帯収入」は▲10.4(前期比0.9ポイント下落)、「保有資産」は▲11.4(前期比0.3ポイント下落)、「暮らしのゆとり」は▲12.4(前期比0.3ポイント下落)と、いずれも悪化となった。今後の見通しは「お金の使い方」が大幅に悪化となり、消費の抑制姿勢が強まる見込み。

家計収支

山形の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が474千円と前年同期比で18千円の減少となった。支出面でも、支出合計が406千円と前年同期比で14千円の減少となった。

その結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は85.6%(前年同期比0.2ポイント増加)で、ほぼ横ばいとなった。前回は前年同期を大幅に上回っていたが、今期は消費マインドが低下していることから、平均消費性向も前年並みに戻ったものと考えられる。

秋田の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が439千円と前年同期比で14千円の減少となった。一方支出面では、支出合計が401千円と前年同期比で10千円の増加となった。

その結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は91.3%となり、前年同期比5.1ポイントの増加となった。

図3 山形 景気判断指数(内訳)の推移

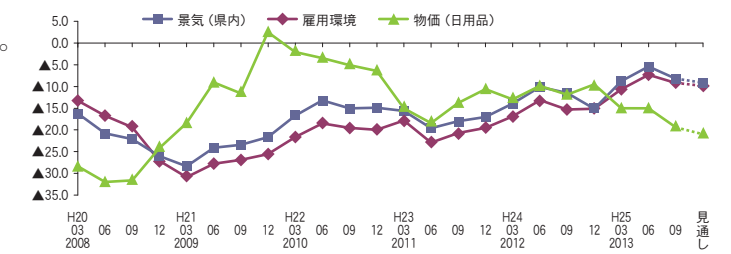


図4 秋田 景気判断指数(内訳)の推移

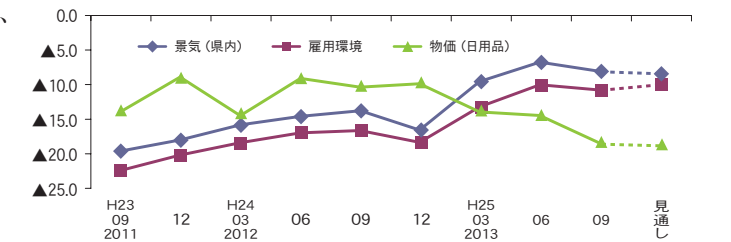


図5 山形 暮らし向き判断指数(内訳)の推移

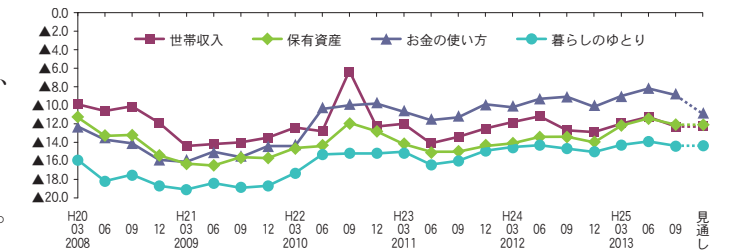


図6 秋田 暮らし向き判断指数(内訳)の推移

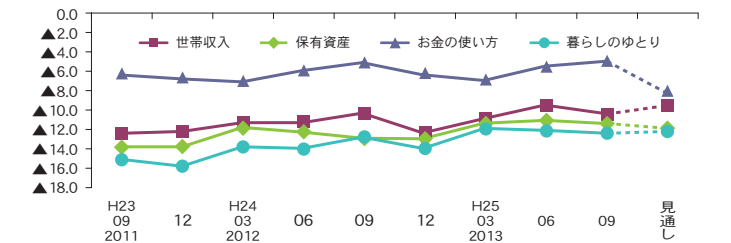


図7 山形 平均消費性向の推移

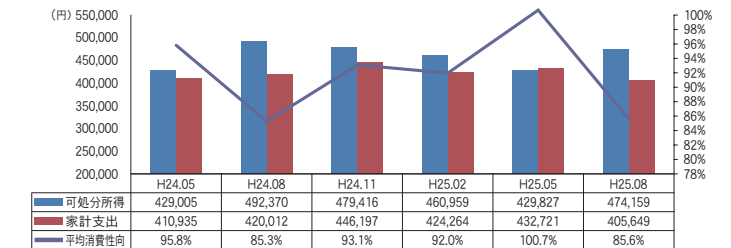


図8 秋田 平均消費性向の推移

